

## 自己表現力を高めるための段階的指導の工夫 コミュニケーション能力を高めるためのライティングの指導法

### 1 課題設定の理由

平成 25 年度より、新学習指導要領による教育課程が学年進行で実施される。現行の学習指導要領で、「書くこと」を中心に指導している科目「ライティング」はなくなり、新たに「英語表現」 「英語表現」が設けられる。英語表現の目標は次のとおりである。

英語を通じて、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を育成するとともに、事実や意見などを多様な観点から考察し、論理の展開や表現の方法を工夫しながら伝える能力を養う。

「論理の展開や表現の方法を工夫しながら伝える能力」とは、文章の構成を考え、話したり書いたりして、相手に伝える能力を意味する。事実や意見などを相手に伝えるためには、まず、自分自身が何を伝えたいのかを明確にしておく必要がある。さらに、伝えようとする事実や意見などを相手に分かりやすくするために、必要に応じて、内容を時系列にまとめたり、重要度の高いものから配列して話したり書いたりすることもある。他にも、原因を述べた後に結果を述べたり、問題を提起した後にその解決策を述べたりするなどの論理の展開や表現の方法が考えられる。自分が伝えようとすることを明確に理解し、論理的に話したり書いたりすることができる力を育成することが大切になる。さらに、「コミュニケーション英語」に準じ、「生徒が情報や考えなどを理解したり伝えたりすることを実践するように具体的な言語の使用場面を設定して、言語活動を英語で行う」と明記されている。

現在の「ライティング」の実際の指導では、和文英訳や文法重視の傾向が強く、コミュニケーション能力を育成するための言語活動を行う機会は少ない。そこで、授業は英語でコミュニケーションを図る場であるという認識のもとに、生徒の自己表現力を高める指導を段階的に行い、問題点やその解決法・改善法などを検証し、「ライティング」の指導における自己表現力を育成するため効果的な指導法について研究していくこととした。

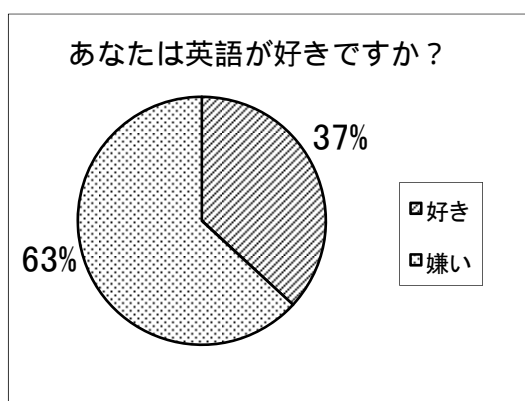
### 2 生徒の実態

#### (1) 事前アンケート

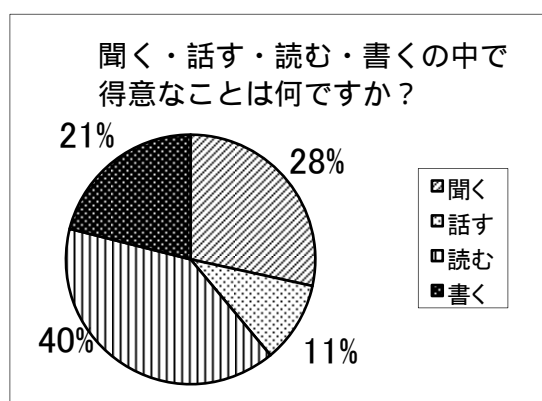
研究対象となる第 2 学年の生徒 95 名を対象にアンケートを実施した。アンケートの内容、及び結果に関しては以下のとおりである。(資料 1)

< 資料 1 >

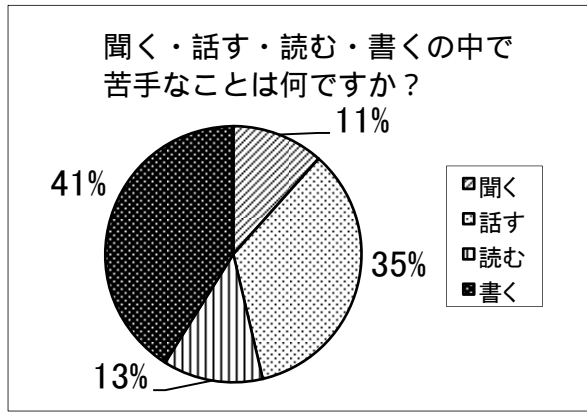
問 1



問 2



問 3



問 4 英語を「話す」ことに関してどのようなことができるようになりたいですか。

- ・外国人と会話がしたい。
- ・ある程度日常会話ができるようになりたい。 (多いものを抜粋)

問 5 英語を「聞く」ことに関してどのようなことができるようになりたいですか。

- ・英語で話されている内容が1回で正確に聞き取れるようになりたい。
- ・外国人が話していることをある程度聞き取れるようになりたい。
- ・洋楽を聞き取れたり、洋画を字幕なしで理解できたりしたい。
- ・受験のリスニング問題で困らないくらい聞き取れるようになりたい。 (多いものを抜粋)

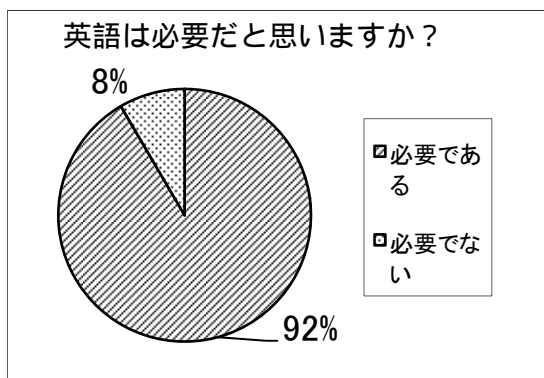
問 6 英語を「読む」ことに関してどのようなことができるようになりたいですか。

- ・英字新聞を読んだり、物語を読んだりしたい。
- ・教科書の本文がすらすらと読めるようになりたい。
- ・長文問題がすらすらと読めるようになりたい。 (多いものを抜粋)

問 7 英語を「書く」ことに関してどのようなことができるようになりたいですか。

- ・英語で手紙やメールを書けるくらいになりたい。
- ・自分の考えを英語で書けるようになりたい。
- ・授業やテストで困らないくらいにすらすら書けるようになりたい。
- ・書くことはあまり必要ない。 (多いものを抜粋)

問 8



[ 必要であると思う主な理由 ]

- ・今後外国と関わるが増えると思うから。
- ・外国の人とコミュニケーションをとれるから。
- ・世界で最も多く使われている言語だから。
- ・将来、大学入試や仕事で必要になると思うから。

[ 必要でないと思う主な理由 ]

- ・身近で使っている人がいないから。
- ・必要な人だけが学べばよいと思うから。

英語を「読むこと」が得意であると答えている生徒が多いのは、教科書の本文を和訳しながら読み、内容を理解するという授業形態が多いためではないかと考えられる。英語を「書くこと」に関しては、多くの生徒が苦手意識をもっている。これまでの英語学習や授業において、「書く」活動が少なかったことが、生徒の「書くこと」に対する苦手意識をさらに強くしているものと考えられる。全体的には、4技能の中でも「読む」「聞く」というインプットを得意と感じ、「話す」「書く」というアウトプットが苦手であると感じている傾向が顕著であった。

## (2) 事前アンケートに基づく仮説

アンケートの結果を基にこれまでの授業形態を再考し、以下の仮説を立てた。

仮説1 ライティングの授業の中で、「書くこと」に重点を置いた活動(QUICK WRITE)を段階的に取り入れることで、生徒は苦手意識を克服し、「書く」活動に対して意欲的に取り組むようになる。

仮説2 教科書の中の重要表現を明確に示し、それらを活用して自分の考えや意見を書いたり話したりする活動を取り入れることで、自信をもって英語でのアウトプットができるようになる。

## (3) 到達目標と目指す授業の流れ

これまでのライティングの指導形態は、文法を説明した後に日本語を英訳させ、それを板書させて添削するという指導形態が多かった。しかし、アンケートの結果から、英語での自己表現力を育成することが課題であることが分かった。そのため、次のことを到達目標として、段階的に指導することとした。

教科書の学習内容に基づいて、自分の考えを英語で表現し、さらにそれらを実際使用する活動を行うことで、積極的に英語でアウトプットをする。

具体的には、指導段階を4つに分け、それを指導段階1・2と指導段階3・4に分けて、それぞれの到達目標を設定した。

また、できるだけ英語を用いて授業を実践することを心がけ、基本的には次のような流れで指導を行うこととした。

新しい学習事項(文法など)を提示する。

練習問題を解きながら新しい学習事項の定着を図る。

定着した学習事項を活用するために、コミュニケーション活動をする。

これまでも指導してきた、「書くこと」に重点を置いた QUICK WRITE という活動をこの流れの中で継続して実施し、その内容を工夫改善しながら研究を進める。

## 3 本研究の流れ

本研究は以下の流れで実施した。

5月下旬 事前アンケートを実施する。

6月・7月 QUICK WRITE を実施する。

9月	QUICK WRITE	を実施する。
10月	QUICK WRITE	を実施する。
11月		事後アンケートを実施し、研究の考察をする。

#### 4 実践内容

ライティングの教科書（UNICORN ENGLISH WRITING、文英堂）を使用して授業を展開する。

指導段階	指導内容
1	英作文の練習問題で、適語補充形式で英作文させる。 書いた文を各自で音読させる。 重要表現を用いて、自分の考えを英語で書かせる。（QUICK WRITE）
2	段階1のと同様の活動をさせる。 ペアワークで書いた文を音読させる。 重要表現を用いて、自分の考えを書かせる。（QUICK WRITE） で書かせた英文の内容に関して、教師と英問英答をする。 英問英答の内容を書かせる。
3	テーマとその関連語を与え、英作文を書かせる。（QUICK WRITE） で書かせた英作文の内容に関して、教師と英問英答する。 英問英答の内容を書かせる。
4	テーマを与え、マッピングをさせる。 マッピングで挙げられた語に関して、英問英答をする。 英問英答の内容を参考にして、英作文をさせる。（QUICK WRITE） で書いた英作文の内容に関して生徒同士で、英問英答をさせる。

##### （1）指導段階1および指導段階2 QUICK WRITE の実施

本事例を実践した学校では、以前から、授業の最初の5分間で、与えられたテーマに関して英作文を書く QUICK WRITE という活動を、「ライティング」の指導の一つとして継続的に実施してきた。指導段階1と指導段階2では、この QUICK WRITE を改善し、教科書の内容を学習した後に、その学習事項を使って自分の考えをできるだけ英語で書くという活動を実施した。

現在使用している教科書には、以下のような指導手順が示されている。

- 1 文法項目や構文を学習し、それに関する模範的例文を提示する。
- 2 ドリル形式のような形で基本的な英文を練習する。

この手順に従って、これまでは日本語での文法事項などの説明 問題演習 解答解説という流れの授業を行ってきた。しかし、本実践では、生徒の自己表現力を育成することに重点を置いて指導するために、補助教材としてワークシートを使用した。

##### 指導段階1、指導段階2の到達目標

- ポイントになっている重要表現を理解することができる。
- 自分で書いた英作文をしっかりと音読することができる。
- 学習した表現を用いて、自分の考えを書いたり、話したりすることができる。

## 指導目標

英語で適切な指示・助言をして、重要表現を明確にする。

正答を確認した後に音読やペアワークで学習事項の定着を図る際、発音やイントネーションなど、発話の正確性に留意させる。

英作文を書く際には、できるだけ生徒が英語を積極的に書くように、必要な語彙や文法事項などを、生徒一人一人の実情に合わせて指導・助言をする。

生徒が書いた英作文が生かされるように、英問英答の内容は十分な配慮をする。

## (ア) 指導手順

ワークシートを作成する際は、次の二点に留意した。

英語で全文を書かせるのではなく、重要表現がどの部分なのか、どのように文中で使用するのかを生徒が理解しやすいように、( )を用いた空所補充の形式で英作文を書かせる。英文の下にスペースを作り、日本語訳を書いたり、必要に応じて下線を引いたりできるようにする。

指導段階 1 及び指導段階 2 での指導の手順は、次のとおりである。b)までは共通である。

- ワークシート(資料 1)の英文の空欄になっている部分に、教科書の例文等を参考にして、適切な語を入れさせる。
- 重要表現を確認しながら、正答を板書で確認する。
- 各自で何度も文を音読させる。 <指導段階 1 >
  - 各自で何度も文を音読した後、ペアワークをさせる。その際、一人が日本語を言い、もう一人が英語を言う。役割を変えながら、何度も練習し、暗唱させる。 <指導段階 2 >
- 学んだ重要表現を用いて、自分の考えなど伝えたいことを英語で書かせる。(QUICK WRITE) <指導段階 1 >

・ <指導段階 1 >と同様に書かせた (QUICK WRITE)後、その内容に関して、何人かの生徒に教師が英語で質問し、英語で答えさせる。他の生徒はそのやりとりを聞いて、その生徒が伝えたかったことは何かを英語で書かせる。生徒の発言をそのままディクテーションしても、自分なりに解釈して書いてもよいとした。資料 2 は生徒が書いた英文と、それを基にした生徒と ALT との会話である。 <指導段階 2 >

### <資料 1 >

Strategies 5	Class	No	NAME
A			
1	例) 彼は戸口で待っているに違いありません。		
	He ( must ) ( be ) ( waiting ) at the door.		
2	そのニュースは真実であるはずがありません		
	The news ( can ) ( not ) be true.		
3	午後には雨が降るかもしれません		
	( It ) ( may ) ( rain ) in the afternoon.		
B			
1	彼はいま事務所にいるはずがありません		
a.	He ( can't ) ( be ) at his office now.		
	そのとき彼が事務所にいたはずがありません		
b.	He ( couldn't ) ( have ) ( been ) at his office ( then ).		
2	彼女は金持ちかもしれません		
a.	She ( may ) ( be ) a rich woman.		
	彼女は金持ちだったかもしれません		
b.	She ( may ) ( have ) ( been ) a rich woman		
3	彼らは昼までに空港に着かなければなりません		
a.	They ( must ) ( arrive ) at the airport by noon.		
	彼らは今までは空港に着いているにちがひありません		
b.	They ( must ) ( have ) ( arrived ) at the airport by now.		
C			
1	ひとつお願いがあるのですが。		
	( May ) I ( ask ) you a favor?		
2	駅までの道を教えていただけませんか。		
	( Could ) ( you ) ( tell ) ( me ) the way to the station?		
3	彼女に伝言をお願いできますか。		
	( May ) I ( leave ) a message for her?		



活動の様子

ワークシートで学習したあと、正解を確認するために板書をしているところ。



活動の様子

例文を各自で何度も音読した後、ペアワークで例文を覚えているところ。



活動の様子

ペアワークをした後、各自で英作文を書き、それに関してALTと英問英答をしているところ。

< 資料 2 >

A=ALT S= Student

A: You must finish English homework, right?  
 S: I must finish Math homework.  
 A: So, did you study Math hard last night?  
 S: Yes, I did.  
 A: Do you forget to bring it?  
 S: Yes. It is shocking!  
 A: That's too bad.  
 S: I must have left my homework at home.

QUICK WRITE

I must finish my homework by today.  
 Last night I studied hard.  
 I couldn't find my homework in my bag this morning.  
 I must have left my homework at my home.  
 It's shocking!

(イ) 指導段階 1・指導段階 2 の考察

実施後のアンケート結果(資料3)からも分かるように、日本語での文法説明と和文英訳に偏りがちな従来の授業と比較すると、ワークシートを用いての授業形態については95%の生徒が分かりやすいと回答した。重要表現を用いて自分の考えを英語で表現させる QUICK WRITE では、自主的に書こうとする姿勢が見られ、また、単文の羅列が多いものの以前より書く分量が多くなった。英文を書いて終わりではなく、それらを音読したり、ペアワークを用いたりするなどの活動を取り入れることで、書くことに対する生徒の意欲や関心を高めることができたのではないかとと思われる。QUICK WRITE で生徒が書いた英文の量が増えるにつれて、ペアワークにも主体的に取り組んだり、積極的に音読活動に取り組んだりするようになった。互いに教え合い学び合うことによる効果の表れと言える。

要点や手順の説明に関しては、最初は英語だけを使用したため、分かりにくいという生徒が多くなったり、説明を何度も繰り返すため時間がかかったりしてしまった。そこで、生徒の理解度に応じて、日本語での説明を加えたり、やさしい英語を使用したりするようにした。生徒とのやりとりの中で、教師が状況に応じて英語と日本語のバランスを考えていくことが今後の課題である。まずは、教員が自ら英語を使用する姿勢を示すことで、生徒の「聞くこと」への意欲を高め、相手の伝えたいことを理解しようとする姿勢を育成できるのではないかとと思われる。到達目標ごとの考察は次のとおりである。

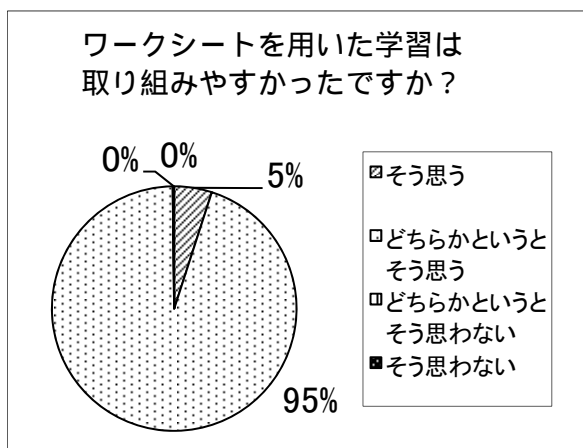
到達目標 : 単元のポイントとなっている重要な表現などを空所にすることで、明確に示すことができ、生徒は重要表現を意識しながら英文を書くことができた。

到達目標 : 文中の重要表現の意味や文中での使用方法を正確に理解し、それらに留意しながら音読することができた。

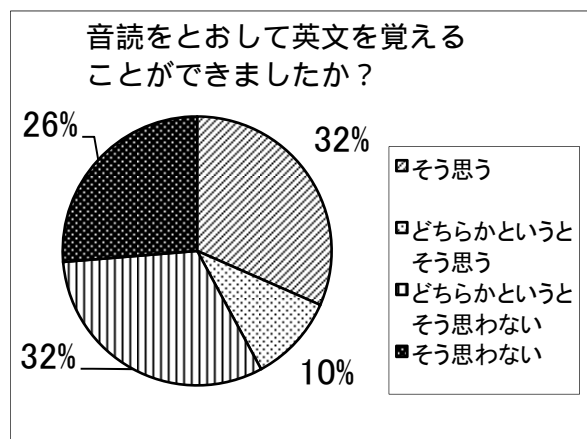
到達目標 : 学習した表現を用いて、自分の考えを書くことは徐々にできるようになってきた。しかし、自分が書いたことを相手に伝えることにはまだ抵抗がある生徒も多い。情報伝達の手段の一つである「話して相手に伝える」ということをさらに指導したい。

<資料3> 段階1、段階2の指導後のアンケート結果(4クラスで実施:実施人数95人)

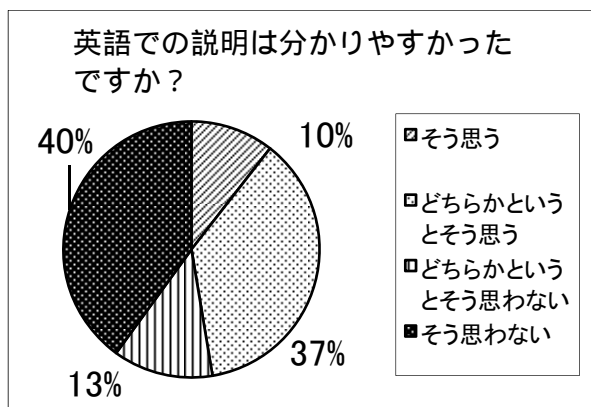
問1



問2



問3



## (2) 指導段階3および指導段階4 QUICK WRITE ・ の実施

指導段階1と指導段階2では、学んだ表現を用いて自分のことを英語で表現する指導を行った。しかし、重要表現を意識しすぎるあまり、一文一文が単独の文になってしまい、文と文のつながりを意識した英文を書かせることができなかった。英語で文を書くことにある程度抵抗感が少なくなってきたため、QUICK WRITE を発展させ、文のつながりを意識したパラグラフライティングの指導を行うことにした。ただし、パラグラフライティングをさせるには段階的な指導が必要になる。そこで、二つの段階(段階3、段階4)を設定し、それぞれの段階でQUICK WRITE ・ を実施することにした。また、書いた内容を相手に話して伝えることの指導がまだ十分でなかったため、英問英答を工夫したり、相手が伝えなかったことを聞きとって書くことを指導したりした。教科書での学習内容の定着を目指すための活動であるため、重要表現などを適切に用いた英作文をさせることにも留意した。

### 段階3、段階4の到達目標

文のつながりを意識し、教科書で学んだ重要表現を用いて正しい英文を書くことができる。

学んだ表現などを用いながら、与えられたテーマに関して、自分の考えを整理し、文章を組み立て、書くことができる。

自分で書いた英作文の内容を基に、教師や友人と英語で会話ができる。

### 指導目標

生徒の意識が、「一文を書く」ことから「段落を書く」ことに自然に変わっていくような指導を心がける。

自分の意見や考えを伝える文章を書く指導をするため、題材は生徒にとって身近なものにする。

英文を書く際は、生徒ができるだけ英語を積極的に書くように、必要な語彙や文法事項などについては、各生徒の実情に合わせて指導・助言をする。

生徒が自発的に書いた文章をできるだけ生かすような質問をするように配慮する。

(ア) 指導手順 段階3、段階4と段階を踏んで指導をした。

#### 指導段階3 QUICK WRITE の指導手順

- a) ワークシート(資料4)を配布し、テーマを与えた後、クラス全体で関連する語を考える。
- b) それらの単語の中の必要なものを用いて、5分程度でそのテーマに関して、自分の意見などを英語で書かせる。
- c) b)で書いた英作文の内容について、教師と生徒で英問英答をする。毎時数人の生徒を順番に選ぶ。
- d) 他の生徒にはそのやりとりを聞かせて、その生徒が伝えなかったことは何かを英語で書かせる。
- e) どれだけ書くことができたかを生徒に認識させるため、ワークシートに( words)という欄を作り、語彙数を記入させる。自己評価はA～Eの5段階評価と、文章での評価にする。



関連する語を生徒にあげさせ、事前に指導することで、辞書を引く時間が減り、英文を書く時間を長くとることができた。生徒と教師が英問英答をする際は、その生徒が伝えたい情報を他の生徒が理解しやすいように留意して質問した。どのようなやりとりが行われたかを資料5にまとめた。また、やりとりを聞いた生徒になるべく多くの英文を書かせるために、生徒の発言をそのままディクテーションしても、自分なりに解釈して書いてもよいこととした。

関連する語をクラス全体で共有したので、どの生徒も英文を書くために必要な語彙が備わり、スムーズに英文を書き始めていた。しかし、使用する語彙が同じになってしまったため、生徒の創造性を引き出すことができず、完成した英文はみな同じような内容になってしまった。また、英問英答は数名の生徒と教師のやりとりであったため、全体的には生徒の英語の発話量が減ってしまった。この問題点を解決するために QUICK WRITE を改善し、QUICK WRITE を実施した。

< 資料 4 >

Lesson  
Model sentence (the sentence which we learned in the last lesson)  
will, can, may, must, should...

Theme: Fall

Associated Words (As many words as possible)

○ hiking	○ forest
○ mountain	○ bear
leaves	○ salmon
tree	○ fall
disposal chopsticks	
wood	

( 10 Words)

I will go (hiking) with my family in this (fall).

Because I want to see a lot of (bears) and (salmons).

I think that if I go to a (mountain), I should take a picture (in) the forest.

I want to eat (box) lunch there.

So I will help my mother to cook lunch. (A)

I want to go hiking at Silver week.

Supplementary Sentences

I may go on a hike in fall.

For I want to see many beautiful sceneries in the forest.

( 6 Words)

Self-evaluation					コメント ほぼすべての単語を覚えていたが、 文法に自信がない。
S	A	(B)	C	D	

< 資料 5 > テーマは「Fall」、授業で扱った重要表現は助動詞である。

T=Teacher S=Student

T: What will you do this fall?  
S: I will go hiking with my family in this fall.  
T: Where do you want to go?  
S: I want to go to a mountain in Nikko. I like beautiful scenery, so I want to take many pictures, for example fallen leaves.  
T: Oh, I like beautiful scenery too. Anything else?  
S: In Fall, there are many delicious foods, for example... yakiimo.  
T: You like a sweet baked potato?  
S: Yes...Yes... I like a sweet baked potato. I may eat it every day.  
T: Don't eat too much, please.  
S: If I eat too much, I should do exercise.  
T: I think so too.

指導段階 4 QUICK WRITE の指導手順

a) ワークシート(資料6)を配布する。一つのテーマからいろいろな発想ができるように、

テーマを Associated words の中心に書かせる。そこから生徒たちにマッピングをさせる。  
 (資料7)

- b) 数人の生徒がマッピングしたものを例として選ぶ。書かれた単語を基に、教師が英語で質問をする(資料8)。質問を聞いたり、質問に答えたりさせることで、マッピングした単語を用いてどのような英文が作れるかを考えさせる。質問に答えさせるのは、それを書いた生徒だけでなく、ランダムに指名する。
- c) b)でのやりとりを参考にして、自分が書いた単語を用いて5分程度で自分の意見などを書かせる。(資料9)
- d) c)で書いた英作文の内容について、グループまたはペアの形式で、生徒同士で英問英答をさせる。(資料10)
- e) どれだけ書くことができたかを生徒に認識させるため、ワークシートに( words)という欄を作り、語彙数を記入させる。自己評価はA~Eの5段階評価と、文章での評価<資料6>

QUICK WRITE では、マッピングの形で、自由に発想を広げさせた。生徒は、テーマからイメージして単語をどんどん広げていくので、生徒の創造性や独自性を引き出すことができる。しかし、単語の数が増えると、それらを文中でどのように使用すればよいか迷ってしまい、英文が書けない心配がある。そこで、数人の生徒のマッピングを例にとり、そこであげられている単語について教師が質問をした。その際、生徒が質問を聞いたり、質問に答えたりすることで、文中で単語をどのように使用すればよいか理解できるような発問をした。教師と生徒のやりとりが英文を書く際のヒントになるため、生徒たちに注意して聞くように指導した。英作文の後、生徒同士で英問英答をすることを伝え、自分の考えを整理して書くことに留意させた。また、書

Quick Write

Date: October 25 Class: No. Name:

Lesson  
 Model sentence ( the sentence which we learned in the last lesson ) or Grammar  
 I went to Shin-Kyogoku to buy some souvenirs to my friends.

Associated Words ( As many words as possible )

the atomic bomb Dome  
 Hiroshima  
 Osaka  
 U.S.J  
 Suzumashi - temple  
 Kyoto - Fushimiya - temple  
 Heian shion

Theme : School Trip ( 8 Words )

I went to Fushimi-temple <sup>on my free day</sup> ~~at~~ <sup>first went to</sup> free-act in the school trip.

I took ~~to~~ <sup>to</sup> Fushimi-ya-bufai.

It was very beautiful.

I <sup>paid</sup> pay homage at a shrine there very hard.

I went to (the U.S.J) in Osaka.

I rode many rides.

( 4 Words )

Self-evaluation S A B **C** D コメント  
 物言は: 質は高くないが、  
 英語を教えるには、自分の考えを整理し、まとめることが大切だと感じた。

いた内容に対する生徒同士のやりとりでは、一方的な情報伝達にならないように、相手の発話内容を正確に理解したり、それに対しての意見を述べたりするように指導した。

< 資料7 > スポーツをテーマにしたマッピング

Associated Words ( As many words as possible )

everyday  
 practice  
 club  
 tennis  
 teamwork  
 friends  
 teammate  
 health  
 diet  
 fun  
 game  
 hard  
 tired  
 win  
 lose  
 Theme : sports

( Words )

<資料8> (資料7)を基にした教師と生徒とのやりとり (間違った表現もそのまま記述)

T=Teacher S1=Student 1 S2= Student 2 S3=Student 3 S4= Student 4

T : Do you like playing sports?  
 S1 : Yes, I like sports.  
 T : Do you belong to any club?  
 S1 : Yes, I belong to tennis club. It's a lot of fun.  
 T : OK, playing tennis is a lot of fun for S1. How about you, S2?  
 S2 : I play soccer every day.  
 T : Why do you practice hard every day? To win the game?  
 S2 : I practice soccer to win the game. I want to be good soccer player.  
 T : Do you think it important to win the game?  
 S2 : Yes, I do. But teammates is also important.  
 T : I think it important to play sports with your teammates, because they encourage you to try again when you fail. How do you think, S3?  
 S3 : I game baseball last Sunday. I lose ... lost. But we ...先生、「励ます」みたいななのさっき出てきたと思うんですけど、もう一回言ってください。  
 T : It's "encourage."  
 S3 : Thank you. But we encourage each other and we practice hard to win next game.  
 T : You had a baseball game last Sunday, but you lost it. It's a pity, but you go on practicing hard with your teammates. I hope you will win the next game. By the way, I jog every morning to be in good health. S4, I saw you running this morning.  
 S4 : Yes! I ran this morning in order not to be late for school!  
 T : OK.... Anyway, to play sports is fun and good for our health. I think sports give us a lot of important things. Do you think so too?

<資料9> (資料8)のやりとりの後に生徒が書いた英作文

I belong to tennis club. I practice hard every day. Sometime I want to give up. But my teammates always encourage me to try again. So, they my treasure, I want to practicing tennis with them to win the game.

(40 Words)

Self-evaluation	コメント
S (A) B C D	今日はよく書けた。早く部活に行きたかった。

<資料 10> (資料 6) の英作文を基にした、生徒同士のやりとり。テーマは「SCHOOL TRIP」である。

S1=Student 1 S2= Student 2

S1: Where did you go last week?
S2: I went to Kyoto to visit temples.
S1: What temple did you enjoy most?
S2: I enjoyed Kiyomizu-temple.
S1: What did you do in Kiyomizu-temple?
S2: ..... I bought Omamori.....
ここで Student 1 は教員に“What do we say Omamori in English?”と質問をした。
S1: You bought a lucky charm?
S2: Yes...Yes...I bought a lucky charm.
S1: Why did you buy a lucky charm?
S2: Because it makes me happy.
S1: Oh, I see.

### (イ) 指導段階 3・指導段階 4 の考察

指導段階 3 として、クラス全体でテーマの関連語を共有してから、英文を書かせることにした。生徒が関連語をイメージしやすいように、テーマは身近なものにした。英作文の前に関連語を自分で調べる時間を与え、ワークシートにそれを書き入れる欄を作った。あらかじめ"WORD BOX" のようなもので教員が示してしまったときもあった。しかし、生徒が単語を出し合った方がその後の英作文への取組が意欲的であると感じたため、時間がかかっても生徒同士で関連語を共有させることとした。回数を重ねるごとに、語彙力のある生徒や発想力のある生徒が積極的に発言するようになり、関連語が多く出てくるようになった。

また、書いたことを口頭で伝えさせるため、教師が数人の生徒と英語でやりとりをする活動を取り入れた。その際、教師が質問の仕方や内容を考慮しないと、生徒が自分の書いた文章をただ読むだけになってしまうので、いかに生徒の発話を促す質問をするかが重要であった。

さらに、聞いた情報を自分なりに整理し、相手が伝えたかったことを英語で表現するという活動を入れた。これは、ただ聞くのではなく、要点を捉えて正確に情報を把握することに留意させたいと考えたからだ。最初は相手が発話したことをただディクテーションする生徒が多かったが、徐々にディクテーションの分量が減り、自分なりに整理した情報を英語で表現できるようになってきた。

指導段階 4 では、英文を書く前に、マッピングとそれに関する教師と生徒の英問英答を取り入れた。テーマは、この段階でも身近なものにした。マッピングによって、生徒が自分の連想する単語をどんどん広げていき、書く英文量が増え、内容が充実するのではないかと考えたためである。また、これまでは英問英答は書いた文章に対して行ってきたが、本事例では、自分が知っている単語をなるべくたくさん用いて、自分が伝えたいことを書かせるために、書く前にも英問英答を行った。数人の生徒がマッピングしたものをモデルとして板書したが、その生徒だけが答えるのではなく、クラス全体に向けて発問し、全員に答えを考えさせた。答えが作文を書く際のヒントになるような質問をしたため、生徒は集中してやりとりを聞いていた。生徒が書いた英文は、文の数も多く、文のつながりも意識されているものが多かった。書いたものに対しては、教師と生徒ではなく、生徒同士で英語のやりとりをする活動へとレベルアップしたが、段階的に指導してきたこともあり、活発なやりとりができていくペアが多かった。生徒が書いたものを活用する

コミュニケーション活動を取り入れたことで、生徒が書く文章は、単文からまとまりのある文へと変わっていった。到達目標ごとの考察は次のとおりである。

到達目標 : 文のつながりを意識して文章を書ける生徒が増えた。今後は文法的に、より正確な文を書けるように指導していきたい。

到達目標 : 多くの生徒が、与えられたテーマに関して、自分の考えを整理し、文章を組み立て、伝えたいことを明確にした文章を書くことができるようになってきた。

到達目標 : 会話をどのように定義するかという問題はあるものの、何とか英語でのやりとりが成立していたため、おおむね達成できた。

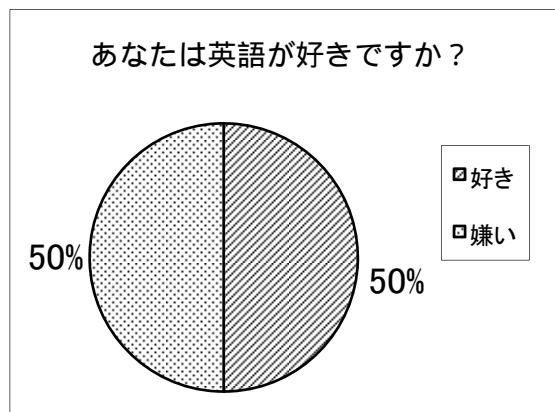
## 5 検証とまとめ

### (1) 事後アンケートによる検証

これまでの実践を検証するために、研究対象となった第2学年の生徒95名を対象に、事前アンケートと同じ内容のアンケートを行った。結果に関しては以下のとおりである。(資料11)

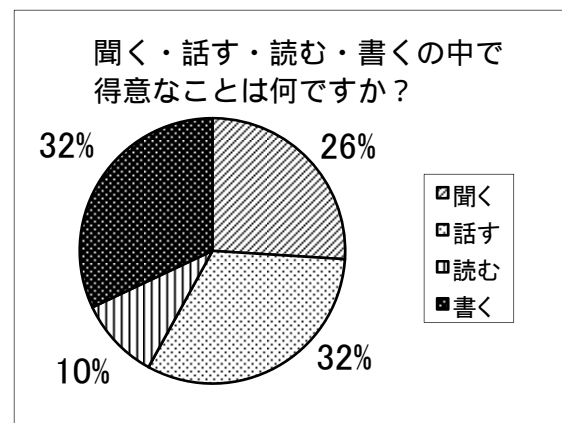
<資料11>

問1



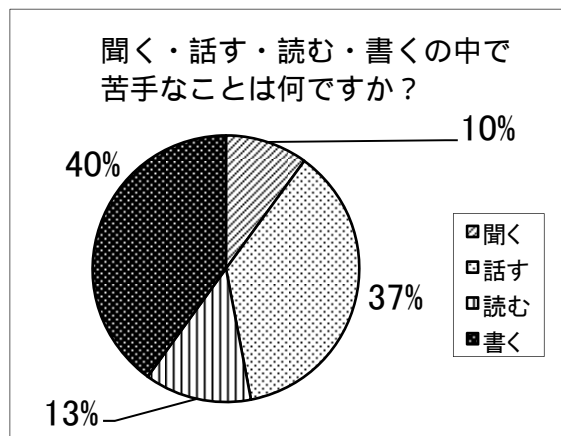
好きという回答が10%以上増加した。

問2



全体的な傾向には大きな変化はないが、活動が増えたことにより、「聞く」と「書く」が微増した。

問3



全体的には顕著な変化はないが、「話す」ことに苦手意識をもつ生徒が微増した。しかし「書いたことが自分で思うように伝えられないから。」という理由を挙げた生徒が最も多かった。

問4 英語を「話す」ことに関してどのようなことができるようになりたいですか。

- ・自分の伝えたいことをきちんと伝えられるようになりたい。
- ・ある程度日常会話ができるようになりたい。

(多いものを抜粋)

問5 英語を「聞く」ことに関してどのようなことができるようになりたいですか。

- ・相手が伝えたいことをきちんと聞き取れるようになりたい。
- ・英語で話されている内容が1回で正確に聞き取れるようになりたい。
- ・受験のリスニング問題で困らないくらい聞き取れるようになりたい。(多いものを抜粋)

問6 英語を「読む」ことに関してどのようなことができるようになりたいですか。

- ・英字新聞を読んだり、物語を読んだりしたい。
- ・教科書の本文がすらすらと読めるようになりたい。
- ・長文問題がすらすらと読めるようになりたい。(多いものを抜粋)

問7 英語を「書く」ことに関してどのようなことができるようになりたいですか。

- ・自分の考えをたくさんの英語で書けるようになりたい。
- ・テーマに沿った自分の意見をもっと英語で書けるようになりたい。
- ・授業やテストで困らないくらいにすらすら書けるようになりたい。(多いものを抜粋)

英語が好きと回答した生徒が10%以上増加したこと、「英語を書く」ということに関して若干であっても数値が上がったこと、「話す」を苦手と感じた生徒の多くが、「何度やっても自分で書いたことを思うように相手に伝えられない」という理由を挙げていたことは、生徒がこの半年間「ライティング」の授業に自発的に取り組んできた成果だろうと考えている。事前アンケートの自由記述では、「外国人と話をしたい。」という意見が多かったが、事後アンケートでは、「自分の意見をたくさんの英語で書けるようになりたい。」「相手が伝えたいことをきちんと聞き取れるようになりたい。」などの意見が多かった。コミュニケーション活動を取り入れた授業実践を通して、自分のことを伝えたいという思いや、相手のことを理解したいという気持ちが強くなってきたと言える。

## (2) まとめ

生徒のアウトプットの機会を増やすために、「英語を書く」ことを授業の中心の活動としながらも、それを基に生徒同士のコミュニケーション活動を行い、自己表現力を身に付ける指導を実践した。段階的な指導を行ったが、その過程で、生徒たちは、文法事項や、単語などの知識的な面の不十分さを実感したり、思うように英語で発話できないもどかしさを感じたりしていた。しかし、最終的には、スムーズとは言い切れないが、生徒同士での英語でのやりとりが成立するようになった。生徒の中に、教科書で学習する表現を身に付ければ自分の意見を英語で書くことができる、英語で文章が書けるとそれを基に英語で自分の考えを伝えることができる、という意識が出てきたことは明らかである。音読をしたり、英語でペアワークをしたりするなど、実際に英語で発話してみることが、既習事項の定着につながることを生徒は理解できたようである。

教師が英語で授業を行うことは、生徒にとっては思ったより受け入れ易いようである。教師の発話する英語は、効果的なインプットの手段であり、生徒の自発的なアウトプットを促すモデルである。日本語と英語を効果的に使い分けことが、教師として今後求められることである。

今後は、いかに生徒の知識の定着を図るとともに、理解を深める活動を工夫していくかということが課題である。指導法を工夫し、段階的に指導することで、「英語を書く力」や「自己表現力」が身に付けられる。引き続き「ライティング」の授業において生徒の英語運用能力の伸長を目指した指導をしていきたいと考えている。